平成二十五年度美術刀剣製作技術保存研修会

刀剣研磨・外装技術研修会ならびに鍛冶研ぎ研修会開催

刀剣研磨・外装技術研修会ならびに鍛冶研ぎ研修会は、本年は以下の受講生を迎え開催されました。

詳細は以下のとおりです。

〈研磨の部〉（三十二名）

◎特別研修生（二名）

神奈川県　塚本　浩之

長崎県　湯浅　健吾

○研修生（六名）

岩手県　石崎　伸也

岐阜県　各務　弦太

青森県　細越　敬喜

千葉県　和田　祥一

英　国　L. R. スチュワート

ロシア　イワノフ　ワシリー

□聴講生（二十四名）

東京都　安藤　麻衣

大阪府　大黒　清隆

群馬県　柿沼　進一

東京都　神山　貴恵

宮城県　國上　涼

神奈川県　倉田竜太郎

埼玉県　神宮　直樹

東京都　滝沢　新一

北海道　舘澤　圭一

神奈川県　土倉　利夫

青森県　二唐奈夫樹

埼玉県　古谷　均

神奈川県　法城寺澄鐵

群馬県　細村　正勝

山形県　堀野　亨

愛知県　福岡　幸子

香川県　古市　諒

茨城県　村上　一郎

東京都　山本　博敏

埼玉県　結城　昭司

富山県　要堺　市郎

東京都　米川　好次

ロシア　オブジニコフ　ウラジミル

ロシア　ニコノフ　マキシム

〈鍛冶研ぎの部〉（八名）

○研修生（七名）

神奈川県　秋山　貴

広島県　賀島　慧一

三重県　角谷健一郎

東京都　羽岡　慎仁

岐阜県　福留　裕晃

東京都　水木　良一

東京都　山副　公輔

□聴講生（一名）

大阪府　水野　淳

〈白鞘・刀装の部〉（十名）

◎特別研修生（一名）

福島県　塚本　剛之

□聴講生（九名）

東京都　阿部　光晴

東京都　飯山　隆司

愛知県　北岡　幸治

埼玉県　神宮　直樹

大阪府　高木　和仁

東京都　水木　良一

東京都　水野　美行

埼玉県　結城　昭司

千葉県　和田　祥一

〈柄前の部〉（十一名）

◎特別研修生（一名）

福岡県　出口　智之

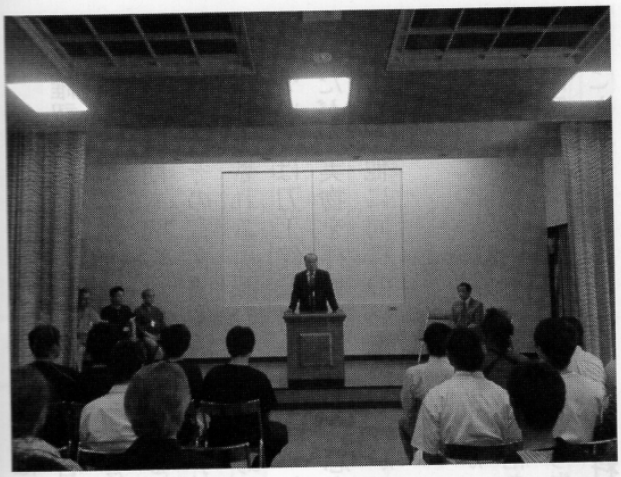
○研修生（四名）

宮崎県　奥原勁士朗

北海道　舘澤　圭一

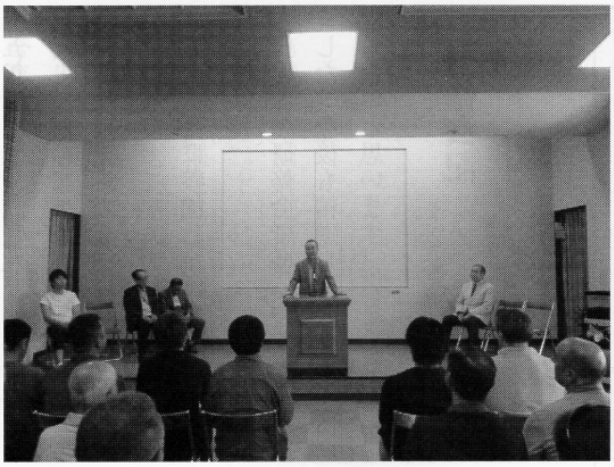
東京都　米川　良子

ロシア　マリアナ　イアコブレヴァ



研磨の部開講式　柴原専務理事

柄前の部　三谷講師



閉講式　羽川講師による講評

たしました。

私は、刀剣職人という世界にとても興味を持ち、独学で柄巻を始めたのですが、それには当然限界があり、道具の仕立て・効率的な使い方、そして何より掟に適った柄巻の技法という基礎から学び直すことが大切だと思い、この研修会に参加しました。

初めての参加でしたので、緊張や不安もありました。講師の三谷先生の素晴らしい技術と親切丁寧な教え方、そして柄前の部はもちろん、白鞘の部・白銀の部の前田先生、羽川先生、河合先生を始め受講生の方々も親切にしてくださり、三日間自分なりに一生懸命取り組み、充実した研修になりました。

研修中は、柄巻の講師である三谷先生に道具・技術・知識とさまざまなことを教えていただき、基本の大切さを改めて実感いたしました。教わったことを今後に生かし、日々精進していこうと思います。

柄巻の高度な技術の継承は難しく、簡単なことではありません。私たち刀剣の職人は、協会の研修会に参加して出来るだけ多くの技術・掟を修得し、日本の伝統文化を守り、受け継いでいかなければならないと、研修会を終えて実感しました。

各部門の方々とのコミュニケーションや情報交換も参考になることばかりで、初めて研修会に参加した私にとっても貴重な時間でした。

最後になりましたが、お忙しいなかご指導くださった講師の先生方、協会の皆様方にこのような研修会の場を提供してくださったことを感謝いたします。ありがとうございました。

参加の動機と学んだこと

白銀の部　武田典明

八月二十九日から三日間続けて行われた外装技術研修会で、私は白銀の部に参加いたしました。これまでは聴講生という形で四回参加いたしましたが、今回は初めて研修生での参加となりました。今回こういう形で参加できたのは、周囲から僅かながら認めてもらえたのでは、と思っております。

私がはじめて鍔を作ろうと思い立ったのは、故赤野栄一さんのビデオを見て、その見事な仕事ぶりと出来上がった鍔の姿に魅了されたことがきっかけでした。

しかし実際にやってみると、道具選びから何から知らないことばかりで、ビデオを見るだけでは全く上手くいきませんでした。

研修会への参加は、同じ支部の会員の方の勧めによるものでした。何も知らない人間など相手にされないのではと、正直不安が大きかったのですが、実際には全くそのようなことはなく、講師の先生を始め受講生の方からも親切に教えていただきました。その内容は今思うと初歩的な質問であっても、嫌な顔をせず答えてくださり、大変ありがたいことでした。

この研修を通して技術を学ぶことと同時に、人に何かを教える（伝える）ことの大切さも改めて教えてもらった気がしました。

あれから六年が経ち、現在ではそこそこやっていける程にはなりました。これもこのような機会を設けてくださる協会の皆様方や講師の先生・研修生の方を始め、他の刀職の方々やいろいろな方からの助言の賜に他なりません。心より感謝申し上げます。

まだまだ覚えることが沢山ある立場ですが、後から来る方々にはできるだけ親切に答えたいと思います。それと同時に、研修生になったことで今まで以上にレベルアップし、少しずつでも前進して、次回の研修までには上達した姿を見せられるよう精進していく所存です。

十五年）には大変お世話になりました。

そして私事ですが、講師の先生だった斉藤光透先生の元で縁あって二年前から修業させていただいています。これも研修会に参加し続けていたからであります。

日刀保の研修会で多くのことを学びました。今後も精進し、刀剣界の役に立ちたいと思います。

研修会記

鍛冶研ぎの部

福留裕晃

研修会初日は、前日の雨も上がり薄曇りのなか始まりました。それまでの東京は残暑が厳しかったようですが、幸い研修中は暑さも収まり過ごしやすい気温となりました。

刀剣博物館の四階にある講堂で開講式が行われた後、三列にビニールシートを敷き、研ぎ舟を仮設して実施されました。鍛冶研ぎの部の講師としておいでになられた吉原義一講師のご指導のもと、各地から集まった八名の刀鍛冶はそれぞれの課題に沿って研修を始めます。

私は一尺九寸の小太刀を持参しました。焼き入れ直後の反り直しを行った、まだ刃の厚い状態のものです。他の方は殆どが刃のついた状態の刀や太刀を持参され、肉置きを丁寧に整える作業を行われたり、姿直しのため刃を引いたりしておられました。

私は初日、吉原講師に小太刀の姿についてご教授いただき、刃と棟を少し削りましたがすっきりせず、翌日東京の刀鍛冶の方に道具をお借りして腰反りを幾分抜くことで、やっとすっきりとした姿に整えることが出来ました。出来上がった時には、これほど僅かな作業で劇的に印象が変化することに、「神は細部に宿る」という一節を痛感しました。

その後はひたすら金剛砥で鏨刃をつけ、肉を落としつつ肉置きを整えるという作業です。次回は刃をある程度薄くしてから持ってきた方がいいな、と思いながら…。

引き続き三日目も肉置きを整える作業で、午前の研修を終えました。午後は会場の清掃後に閉講式が行われ、怪我もなく無事終了しました。

今回の研修では姿や重ねのバランス、肉置きの塩梅についての理解を深めることが出来、また砥石についても今まで知らなかったことを学べ、非常に有益な三日間となりました。

文末になりましたが、この場をお借りして講師の先生方を始め運営の皆様、参加者の皆様へ御礼申し上げます。

ありがとうございました。

次の一年への一里塚

白鞘・刀装の部

飯山隆司

今年も研修会に参加させていただきました。私は柄巻を主な仕事にしております。しかしながら、柄巻だけを知っていればよいというものではなく、外装技術の全般の知識が必要だといつも思っております。

今年の研修会では、白鞘の部の聴講生として参加し、前田先生に拵のことをいろいろと伺いました。前田先生の世界一の技を惜しみなく見せていただきました。また、鞘の掻き入れの大切さと丁寧で緻密な作業をすることの大切さ、いかに妥協することなしに高みの仕事をするのか。作業を通じてハッキリとそれを勉強することができました。

自分の手に合わせた工夫された道具の形、自分のやり方に合った道具の大切さとよい道具の見極めなど、前田先生のお話は嬉しさと感動があります。

日頃、疑問に思っていたことが少し晴れた感じです。

今年も昨年に続きロシア支部の方が参加されていました。皆さんの真剣な勉強の姿勢とマナーの良さは、とても気持ちのよいものでした。海外のライバルが近いうちに増えてくると思います。日本の伝統工芸の技を海外の方が熱心に吸収されている。なんと嬉しいことでしょうか。材料の入手も大変だと思いますが、頑張って欲しいと思います。日本からの応援も必要だと思います。

個人的なことですが、私はこの研修会の時に誕生日を迎えます。このことを、以前から私は大切に思ってきました。新しい一年を迎えるに当たり、この研修会で得た技をその後の一年間の実作業へと活かし、自分の技術を高めるための大切な時期なのです。

協会の関係者、講師・助講師の先生方、参加された全ての方に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

研修会初参加

柄前の部

奥原勁士朗

平成二十五年、八月二十九日から三十一日まで、日本美術刀剣保存協会の研修会に今回初めて柄前の部で参加い

社団法人日本観光通訳協会による両部門の見学会があり、熱心に解説する研修生や、これをまた熱く聞く通訳の方達の姿が見られました。

それぞれの部門の最終日午後二時から閉講式が行われ、柴原専務理事による挨拶、受講証書及び修了証書授与がありました。また講師の先生方から講評として、職方としての心構えなどが話され、今後の制作活動に相対する上での新たな気持ちを持つことができ、一同気を引き締めさらなる精進を誓うこととなりました。講師の先生方にはご多忙と激甚ともいえる気候のなか大変熱心なご指導をいただきました。衷心より厚く御礼申し上げます。

本年度の研修修了者は以下の方々で、各々に修了証書が授与されました。

◎特別研修修了者

〈研磨の部〉　塚本　浩之

○研修修了者

〈研磨の部〉　各務　弦太

〈鍛冶研ぎの部〉　水木　良一

〈柄前の部〉　舘澤　圭一

刀剣研磨・外装技術研修会　鍛冶研ぎ研修会開催　参加感想文

研修会を終えて

研磨の部　塚本浩之

第四十六回刀剣研磨・外装技術研修会は、八月二十六日から二十八日までの三日間開催されました。

私は聴講生一回、研修生三回、そして今年は特別研修生として最後となる三回目の研修会です。

今年は多くの人達が参加していて、その内の半数が初参加の人達で驚きから始まる研修会でした。

今年のテーマは「仕上げ研ぎ」で、篠崎公紀先生、臼木良彦先生にご指導いただきました。

研修会初日から先生自ら研ぎ場に座り、研修生へ手解きをしてくださいました。研修生へ指導していると、他の研修生・聴講生が先生の周りを囲んで技術を学ぼうと、見て、聞いて、質問も飛び交い、その場にいるだけでも勉強になりました。

研修会では技術を学びに来ると同時に、それぞれの研修生が使う道具、砥石など、今まで知らなかったものを見せてもらったり、時には使わせてもらったりといろいろ学ぶことができ、毎年楽しみに参加しています。

七年の間、私が参加していて変わったことといえば、同時に開催されている鍛冶研ぎの部との交流です。参加し始めた当初は、研磨の部と鍛冶研ぎの部で交流は少なく、壁があるように感じました。しかし毎回参加する度、徐々に会話が増え、今では研修生同士で質問し合ったりして、雰囲気のよい研修会となりました。

また、年々研修会の参加者が増えてきて、海外からの参加者も今までは一人二人位だったのが、今年は数名いました。これも研修会が世界的に認知されつつあるためと感じました。大変喜ばしいことです。このまま増えていくのであれば、人数制限、講師の先生の増員、研修会場の設営などに工夫が必要になるのかなと感じました。

最後に七年の間、杉原弘先生(平成十九年～二十三年)、藤代興里先生(平成十九年)、河本光誠先生(平成十九年)、柳川清次先生(平成二十年～二十三年)、斉藤光透先生(平成二十年～二十三年)、篠崎公紀先生(平成二十二年～二十五年)、臼木良彦先生(平成二十二年～二

白鞘・刀装の部　前田講師

白鞘・刀装の部　河合助講師

研磨の部　篠崎講師

鍛冶研ぎの部　吉原講師

□聴講生（六名）

埼玉県　衛藤　八郎
福岡県　金子　正喜
福島県　冨塚　義久
埼玉県　渕江　錦治
埼玉県　古谷　均
東京都　光野　邦裕

〈白銀の部〉（十名）

◎特別研修生（一名）

京都府　上野　宏樹

○研修生（二名）

東京都　武田　典明
ロシア　イワノフ　ワシリー

□聴講生（七名）

兵庫県　石川　雄司
群馬県　柿沼　進一
岡山県　片山　光一
神奈川県　土倉　利夫
青森県　細越　敬喜
愛媛県　三島　幹則
東京都　米川　好次

講師は左記の方々をお迎えしました。

〈研磨の部〉　篠崎　公紀
臼木　良彦

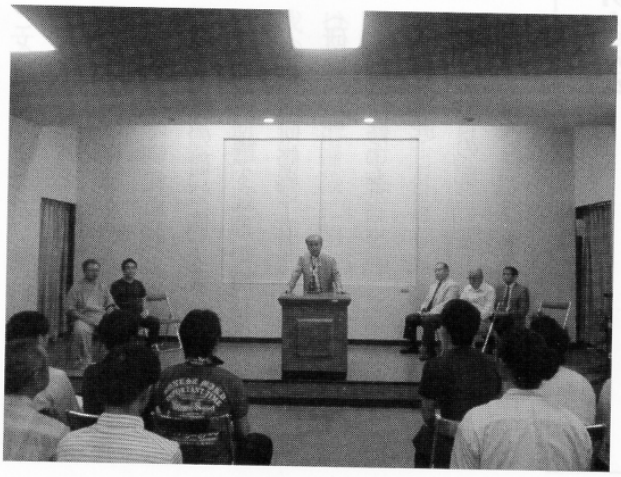
〈鍛冶研ぎの部〉　吉原　義一

〈白鞘・刀装の部〉　前田　幸作

（助講師）　河合　広明

〈柄前の部〉　三谷　修史

〈白銀の部〉　羽川　安穂



閉講式　臼木講師による講評

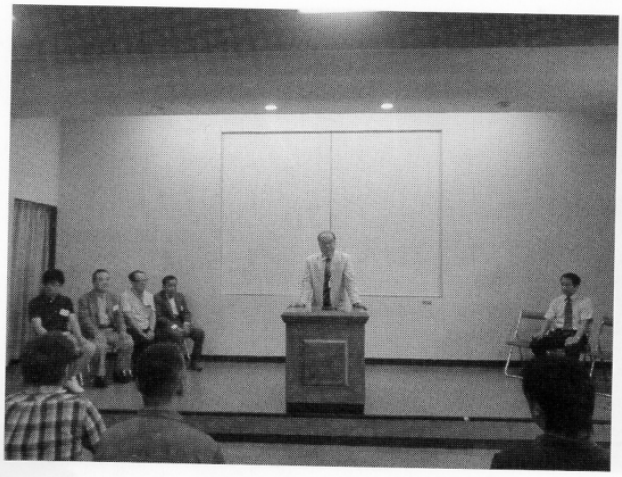
本研修会は、一昨年から三日制となり、前半の「刀剣研磨・鍛冶研ぎの部」、後半の「外装の部」が三日間ずつ開催されました。

日程は八月二十六日(月)から二十八日(水)までを前半、二十九日(木)から八月三十一日(土)までを後半として日程を設定し、今年も厳しい残暑のなか刀剣博物館四階講堂で開催されました。

開講式は各々の初日の午前九時三十分から行われ、柴原勤専務理事が挨拶のなかで、本研修会は公益財団法人としての事業で主要な位置づけにあること、また師弟関係を重んじたなかでの文化継承が必要であり、その心構えで研修を実のあるものにして欲しいこと、などが話されました。

研修会では、研磨の部は「仕上げ研ぎ」、鍛冶研ぎの部は「正しい肉置きの付け方」、白鞘・刀装の部は「掻き入れの基礎技法と道具の修理」、柄前の部は「止めの基礎技法」、白銀の部は「金着せの基礎技法」をそのテーマに掲げ、三日間の研修に励みました。

本年の研修会は、昨年に引き続き刀剣の国際性を再認識いたしました。外国人の研修生が複数となり、みなさん大変に熱心で文化継承の意義を再確認させられました。本年も恒例となった



外装の部開講式　柴原専務理事